～ チャリティ・コンサート ～

五木田 綾 ピアノリサイタル

Aya Gokita Piano Recital

2005年 7/18（祝） 14h00

水海道市立生涯学習センター

後援：水海道市、水海道市教育委員会、茨城新聞社

マネージメント：ユーロアーツ・ジャパン

Aya Gokita Piano Recital

Programme

ワルツ第２番 変イ長調「華麗なるワルツ」 作品34-1
Waltz No.2 A flat major "Waltz brillante"op.34-1

12の練習曲より第12番 ハ短調「革命」 作品10-12
第５番 ホ短調 作品25-5
12 Etudes, No.12 C minor "Revolutionary"op.10-12
No. 5 E minor op.25-5

ノクターン第13番 ハ短調 作品48-1
Nocturne No.13 C minor op.48-1

バラード第１番 ト短調 作品23
Ballade No.1 G minor op.23

子守歌 変ニ長調 作品57
Berceuse D flat major op.57

スケルツォ 第２番 変ロ短調 作品31
Scherzo No.2 B flat minor op.31

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

ポロネーズ 第７番 変イ長調「幻想ポロネーズ」作品61
Polonaise No.7 A flat major "Polonaise-fantasy" op.61

マズルカ第22番 嬰ト短調 作品33-1
第23番　ハ長調 作品33-2
第24番　ニ長調 作品33-3
第25番　ロ短調 作品33-4
MazurkaNo.22 G sharp minor op.33-1
No.23 C major op.33-2
No.24 D major op.33-3
No.25 B minor op.33-4

ピアノ・ソナタ第３番 ロ短調 作品58
Sonata for piano No.3 B minor op.58
1.Allegro maestoso
2.Molt vivace
3.Largo
4.Presto non tanto

Programme notes

ワルツ第２番 変イ長調「華麗なるワルツ」作品34-1（作曲1835年25歳）

1835年８月、ショパンは祖国ポーランドを離れて以来５年ぶりに両親と再会する。この時をどれだけ待ち望んでいたことか。とても言い尽くせない喜びと幸せに溢れた夏の日、１曲のワルツを書く。ウィンナ・ワルツを彷彿させる舞踏会の始まりのような序奏に始まり、優雅で華麗で感傷的、まるで一夜の物語のような心浮き立つ旋律、それがこの変イ長調のワルツだった。

12の練習曲より第12番 ハ短調「革命」作品10-12（作曲1829～32年19～22歳）

ショパンは練習曲を生涯に27曲書いている。そこには超絶技巧の要求と共に、愛や望郷、ドラマや情熱　ショパン独自の美の世界に溢れ愛称をもって親しまれる曲も多い。祖国から遠く離れたショパンのもとに故郷ワルシャワがロシア軍の総攻撃にあって陥落したとの悲報が届く。彼の押さえようのない不安や悲しみ、怒りや憤りが、その激しい和音とうねりのような音楽に窺える。

12の練習曲より第５番 ホ短調 作品25-5（作曲1832～36年22～26歳）

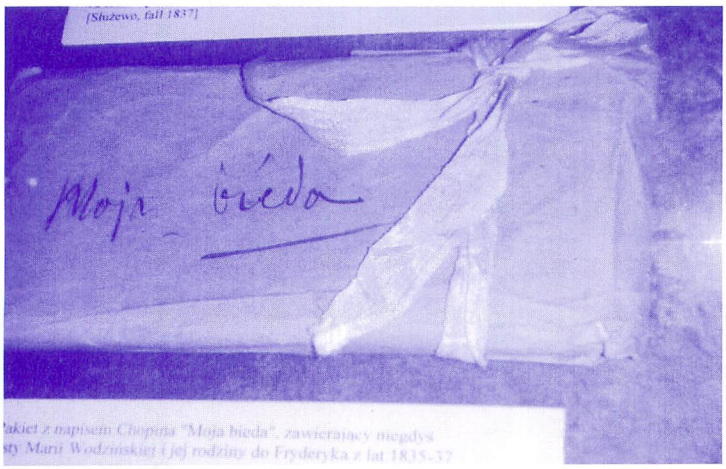
軽快ではあるが、どこか寂しいスラブ系の暗さが漂う。祈りの如く深い思いを歌いこむチェロのような歌の場面を間に挟み、最後は一筋の光のようなホ長調の和音で明るい終止を告げる。作品10の練習曲はリストに、そしてこの作品25はリストの内縁の妻ダグー伯爵夫人に、つまりショパンの２巻の練習曲はフランツ・リスト夫妻に捧げられている。

ノクターン第13番 ハ短調 作品48-1（作曲1840年30歳）

ノクターンとは「夜の音楽」という意味で、その多くは甘く優美で叙情的な世界である。しかしこの第13番は他のノクターンと少し違い、その胸が張り裂けんばかりの悲痛さが感動を呼ぶバラードに近い傑作である。孤独な悲しみにじっと絶えるような悲愴な嘆きの主題に始まりコラールに入る。再び主題がいっそう悲痛さを増し慟哭のように鳴り響く。

バラード第１番 ト短調 作品23（作曲1835年25歳）

25歳になったショパンには真剣に愛した女性がいた…マリア・ヴォジンスカ。しかし不健康なショパンを危惧する両親に諭されたマリアはショパンに最後の手紙を書き、２人の恋に終止符を打つ。「さようなら、永遠に。私たちの思い出をいつまでも忘れないで。」ショパンは涙を流し、これまでの手紙を全て束ねてリボンで結び、『わが哀しみ』と記した。（左写真参照）バラードはそんな辛い恋の経験を経てようやく完成した。故郷を離れこの曲の作曲を始めた20歳の頃から５年もの間にショパンが経験した愛、郷愁、孤独　様々な想いが詰まっている。そしてそれは彼の悲劇的な絶叫のようでもある。



子守歌 変ニ長調 作品57（作曲1843年33歳）

ゆりかごに揺られるような静かな伴奏にのって、右の旋律がまるで星をちりばめたような装飾をもって次々と変奏してゆく。夢に漂いながら最後には安心して深い眠りに落ちていく、心穏やかで美しい宝石のような作品。

スケルツォ第２番 変ロ短調 作品31
（作曲1837年27歳）

1836年12月のある晩、ショパンは招かれたサロンで１人の女性と出会う。この女性は、積極的な愛を以てショパンに迫っていく。彼女こそショパンの人生に多大な影響を与えたジョルジュ・サンドだった。しかし、その時ショパンの心には未だ忘れられないマリア・ヴォジンスカがいた。失恋の痛手にあったショパンだったが、少しずつサンドの存在が大きくなっていく。スケルツォ第２番はそんな転機の年に作曲された、４曲のスケルツォの中で最もポピュラーな作品。

ポロネーズ第７番 変イ長調「幻想ポロネーズ」作品61（作曲1846年36歳）

ポロネーズとはポーランドの民族舞曲である。20歳で祖国を離れ、２度と戻ることのなかったショパン。忘れがたい故郷を想う時の暖かい愛情と孤独な瞑想、若き日に愛する家族を残し他国へ亡命したことへの自責の念ともいえる悲痛な感情。この幻想ポロネーズは、深い郷愁の思いから圧政に苦しむポーランドの国民として、ショパンの魂が懐かしい舞曲のリズムと共に幻想的な世界へ昇華された。ジョルジュ・サンドと別れた晩年期の傑作である。

マズルカ 第22番 嬰ト短調 作品33-1（作曲1837～38年27～28歳）
第23番　ハ長調 作品33-2
第24番　ニ長調 作品33-3
第25番　ロ短調 作品33-4　※曲順はエキエル版による。

同じポーランド舞曲でも、ポロネーズは広く貴族の間で愛好され、一方マズルカは田舎の農民が楽しんだ舞曲であり、男女のペアが輪になって陽気に踊る。（右上写真参照）ショパンも幼い時から親しんでいただろう。生涯決して祖国を忘れず、その音楽を愛したショパンは、60曲近くのマズルカを残した。この作品33の４曲のマズルカは、ショパンの郷愁の想いのようで物悲しい第１曲、戦後の復興の歌として使われた第２曲、陽気な中にどこか懐かしい田舎臭さが漂う第３曲、再び哀愁を帯びた第４曲から成る、彼のパリ時代なかばの円熟期の作品。

ピアノ・ソナタ第３番 ロ短調 作品58（作曲1844年34歳）

1844年34歳のショパンは結核が進行し体調も衰えて、更に愛する父ニコラが召されたと知り心身共に虚脱状態だった。そんな中サンドの計らいで、ポーランドから姉ルドヴィカが訪れ、14年ぶりの再会を果たす。生気を取り戻したショパンはソナタの完成に取り組んだ。激的に始まり、晴れ渡る青空のような歌、怒りや嘆き、喜び、安堵、たくさんの表情をみせる第１楽章、風のように軽やかな主題とコラール風な中間部が対照的な第２楽章、甘く切なく深い詩情を歌う第３楽章、そして最後にふさわしく高揚感に満ちた力強い第４楽章で締めくくられる、ショパン最後のソナタである。

記：五木田　綾

The chequered career of F.Chopin

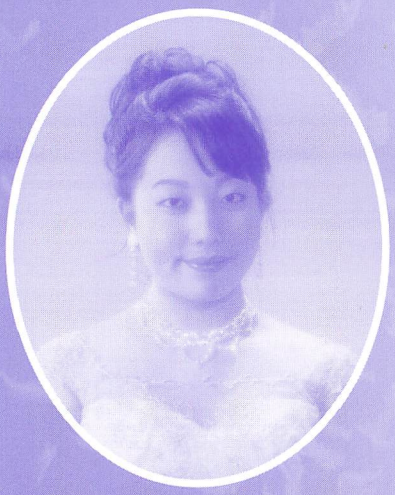
ショパンの生涯

本日演奏させて頂くプログラムは全て、ポーランドの作曲家ショパンの作品です。ポーランドの首都ワルシャワ郊外にある小さな村、白樺の深い森に清らかな小川の流れる、まるで絵に書いたような美しいジェラゾヴァ・ヴォラに、1810年ショパンは生まれました。生後まもなくワルシャワに移り住み、フランス人で文学に造詣の深い父は教師を勤め、ピアノを弾き美しいソプラノの持ち主であるポーランド人の母と、一家には暖かく文化的雰囲気の中いつも音楽があふれていました。母の歌うポーランド民謡を聴いて育ち、ごく自然に母国の民族音楽に馴れ親しんだショパンが弱冠７歳で書いた初めての曲はポロネーズ、そして生涯最後の作品はマズルカでした。

ワルシャワの街では毎夜のように音楽会が催され、特にオペラが大好きだったショパンは、オペラ歌手のような表現をピアノ曲の中でも常に追求していました。こうして生まれたしなやかで、繊細・華麗な美しい旋律、うっとりするような響きの数々が私達の心を打ち、今もなおショパンは「ピアノの詩人」と呼ばれ愛され続けているのでしょう。

1830年10月、20歳のショパンはよりよい音楽環境を求めワルシャワを後にしました。しかし当時ポーランドは、他国に占領され悲劇の歴史を背負う国民の間で、独立を願う革命の気運が高まっていた頃。新しい出発への希望とは裏腹に、愛する家族を残し１人亡命する事への不安や後ろめたさ、もう２度と祖国に帰れないかもしれないという恐怖感の中、ショパンはウィーンを経てパリへ向かったのです。パリの社交界でもてはやされたショパンは、１人の男性として恋もしたし悲しい別れも経験し、その後は主にフランスで創作活動を拡げていきました。そして子供の頃から病弱で結核に侵されていたショパンは、旅立つ日に予感した通り故郷ポーランドには再び戻ることなく、1849年10月17日パリで39歳という短い生涯を閉じました。その体はパリの墓地に埋葬されましたが、いつもポーランドの懐かしい音楽が息づき、愛する祖国と共にあったショパンの心臓だけは、彼の望み通り祖国ポーランドに向かい、今も永遠にワルシャワの聖十字架教会に眠っているのです。

記：五木田　綾



Biography

水海道市出身。2001年３月国立音楽大学付属音楽高等学校卒業演奏会に出演し、同校を卒業する。同年４月国立音楽大学へ入学。在学中よりソロ・室内楽等の演奏活動を開始し、03年11月には水海道市第10回名曲コンサートでショパン：ピアノ協奏曲第１番を演奏する。05年３月武岡賞を、更に卓越した学生に対するドコモ奨学金が授与され同大学を首席で卒業する。同年３月卒業演奏会及び皇居・桃華楽堂での御前演奏、５月東京芸術劇場にて第75回読売新聞社主催・新人演奏会に出演する。また９月には東京渋谷にてピアノリサイタル（カワイ音楽振興会主催）が予定されている。

2001年及び02年、メロス音楽セミナー（ウィーン）に参加する。03年及び04年には国立音楽大学より国内外研修奨学金が授与され、ショパンアカデミー夏期セミナー（ワルシャワ）に参加し、両年とも優秀者による修了コンサートへ出演する。第10回日本クラシック音楽コンクール（2000年）、茨城県学生ピアノコンクール（01年）、ヤングアーティスト・ピアノコンクール（02年）、第５回ショパン国際ピアノコンクールin Asia（04年）等に入賞する。

これまでにピアノを黒沢敬、大畑知子、近藤典子、出羽真理、八木文彦、加藤一郎、アヴォ・クュムジャン、ゲアハルト・ゲレットシュレーガー、カジミエシ・ギエルジョド、マリア・シュライバーの各氏に、ソルフェージュを小崎光洋氏に師事する。国立音楽大学在学中にはルヴィン・オストロフスキー、遠藤郁子、練木繁夫各氏の特別公開レッスンに受講生として参加する。

現在、国立音楽大学大学院在学中。

お知らせ
the Next Stage

五木田綾ピアノリサイタル
2005年９月２日（金）19h00
カワイ青山ショップ「パウゼ」
主催：カワイ音楽振興会　Tel.03-3320-1671

※ 収益金は水海道市民会館ピアノ購入資金の一部として寄付させていただきます。

～チャリティコンサート～　若き才能が語る、ピアノの詩人へのオマージュ

五木田 綾 ピアノリサイタル

2005 7/18 (祝) 14h00

水海道市立生涯学習センター

(常総線「水海道」下車徒歩７分　Tel.:0297-22-1111)

一般　1,500円（全自由席）

後援：水海道市、水海道市教育委員会、茨城新聞社

お問い合わせ：アイ歯科矯正歯科医院0297-23-5588、ユーロアーツ・ジャパン03-5570-7477

ご来場のお客様へ

五木田 綾 ピアノリサイタルへのお願い

本日は「五木田綾ピアノリサイタル」にご来場くださりありがとうございます。

わたしどもチャリティーコンサート実行委員会は，水海道市の音楽文化向上と青少年の健全育成を目的に、可能な限り企画事業を支援したいと考えております。

水海道市には，茨城県教育委員会から指定を受けた「水海道小学校玄関」（現在・茨城県立歴史館に移築）や同所に保管されている慶応元年に製作されたスタイン・ウェイ社のグランドピアノがあるなど，文明開化とともに発展した水海道の足跡が数多くあります。

今回，ご鑑賞いただきますチャリティーコンサートでは，出演者並びに出演者ご家族のご理解・ご協力をいただき，当該入場券売上げによる収益金全額を市にご寄付いただけるそうです。現在市民会館に備品として設置されている老朽化したピアノに代わるコンサートグランドピアノの購入資金に充当させたいとのことです。

つきましては，市内出身者の若き音楽家，五木田綾さんのご意志を更に発展させ，より多くの皆様のご理解を賜りたくお願い申し上げます。皆様方のご支援により，近い将来そのピアノが奏でる旋律が，多くの方々特に市内青少年にとって音楽芸術による感動の素晴らしさを体験する機会となりましたら望外の喜びと存じます。

市民お一人おひとりの音楽芸術への想いも同様かと存じます。皆様方のご芳情が込められた私たち一人ひとりのピアノを迎えることが出来ますよう今後も活動をつづけてまいりますのでご理解とご支援をよろしくお願いします。

本日は，勝手ながら会場ホワイエに募金箱の用意をさせていただきました。ご負担のかからない範囲で，ご休憩時またはお帰りの際お立ち寄りいただけましたら幸いです。

平成１７年７月１８日

チャリティーコンサート実行委員会